



准教授 / 修士（工学）

丸山 晴之

Haruyuki Maruyama

学歴

福井大学 工学部 環境設計工学科、福井大学大学院 工学研究科 博士前期課程 建築建設工学専攻

経歴

仁愛女子短期大学・福井工業大学・福井大学・金沢工業大学非常勤講師、建築設計事務所代表取締役、日事連建築賞（2018・2022）、日本建築士会連合会賞（2019）、中部建築賞（2013・2017）、北陸建築文化賞（2022）、グッドデザイン賞（2018・2021・2023）、木材利用優良施設コンクール優秀賞（2021）、その他

相談・講演・共同研究に応じられるテーマ

人々や企業の活動の場のデザイン、産業と空間の関係性、空間を資源とした社会整備のあり方、木材を活用したデザインなど

メールアドレス

maruyama@fukui-ut.ac.jp

主な研究と特徴

「人々や企業の活動の場のデザイン」

今までの実務経験において、住宅や伝統産業に関係する施設、廃校利用、公共建築、中大規模の木造建築など多様なケースの設計を行っており、個人や企業をとりまく社会や環境との関係性、産業構造と製品・サービスとの関係性を紐解きながら、その住民や事業者、利用者が社会・環境のなかで最大限に価値を高めた生活、活動していくための基盤となる建築をつくりだしている。このような「ブランディング」という観点をういた建築設計が個人の生活環境向上や企業価値を高めるとともに景観形成や社会醸成にも寄与している。

「空間を資源とした社会整備のあり方の提案と実践」

高度成長期を経て、人口減少・高齢社会となっている日本。そのなかで更新期をむかえている建築、社会構造の変化により役目を終えた建築、文化遺産（ヘリテージ）としての建築を利用した社会・環境の再構成を地域の住民団体や事業者と行っている。その役割を再び与えられた建築は、社会・環境にあたたかな価値を与え、地域に活性をもたらしている。

「木材を活かしたデザインの提案」

SDGsが様々な社会構造に影響を与えている現在、建築材料やプロダクトの材料として炭素固定の機能をもつ木材が注目を浴び、多様な技術展開が行われている。また、木を適切に管理することで、その資源は枯渇しない資源として活用されるとともに地域循環型社会の重要な要素となる。その木材を活かした建築や家具のデザインに取り組んでいる。



柄と繪：伝統産業に貢献する企業ブランディング



わくラボ：行政主体の地域活性のための遊休施設活用



城小屋マルコ：住民主体の地域活性のための空家活用

今後の展望

歴史や文化に裏打ちされ、社会の基盤である建築は人類の様々な活動を支えている。その建築がもたらす影響や可能性を探り、コンセプト構築～デザイン・設計を通じて、人と社会に貢献できる建築をつくりだす。大学の研究・教育現場にたちながら、社会や地域、企業の課題解決を図る実践型研究者として、未来への活動を住民や行政、企業と一緒に取組みたい。

また、これらの活動を学生とも一緒に取組むことで実務としての空間や場のデザインを教育していく。

所属学会

日本建築学会

主要論文・著書

○建築設計・デザイン関係

「林の中に住む。」（※）、ミサキハウス（※）、ヒュッテナナナ（※）、右近家離れ改修、LULL（JV）、ハコア社屋、水嶋農機、わくラボ、柄と繪、福井銀行今立支店、+ヒトマメ、八重巻酒店、山座熊川、福井県児童・女性相談所（JV）、タテルヨシノ三國湊、道のオアシスフォーシーズンテラス、（仮称）丸岡観光情報センター（JV）、モクアップ！（福井県立図書館内の可変本棚）、（※印は建築業界主要メディアである新建築住宅特集に掲載）

○地域計画・まちづくり関係

丸岡城周辺整備計画（JV）、三國湊町家プロジェクト（JV）、武生てらら、城小屋・武者小屋マルコ、ほまち三國湊